

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

今年度の課題と来年度に向けて 稲に寄り添った米づくりを目指す!

12月のはじめに、あれほどの大雪になるとは思いもしませんでした。私の所では50%ほども積もってしまいました。幸いその後には寒気が緩んで半分以上は消えてくれましたが、まだ屋根の上にはしっかりと雪が残っています。またしても最近の気象はおかしくなっていると思わざるを得ません。

衆議院の総選挙が終わって党派別の議員数が決まり、民主党から自民党に内閣が代わることになりました。メディアをとおして、選挙結果の分析が色々おこなわれていますので、私ごときには云々する能力も資格もありませんが、少しだけ述べさせていただきます。選挙結果は恐ろしいほど事前のマスコミの予想通りでした。別の表現をすれば、マスコミの予測通りに有権者が投票行動をおこなったという事です。マスコミの世論調査の精度が著しく高まったということなのでしようか。また、大都市と地方の投票傾向がまったく同じで、有権者の選択に従来のような違いやタイムラグがなくなってしまうたことを感じました。もちろん、現在の小選挙区制の選挙制度では世論の動向が正しく反映されず、とりわけ少数意見が切り捨てられてしまうという問題は指摘しておかなければなりません。

また、私のような古い人間にとって政治党派というものは、その国の政治の長期的展望に立った基本路線(それぞれの党派の綱領)に立脚して結集するものであり、個別の政策課題はその基本路線に照らし、検討選択されるもの国民に提示されるものだと思っていま

そのため、私の目からみると原発や消費税などの個別の政策課題で新たな党派が結成されていることに違和感があります。選挙直前まで党派の離合集散がおこなわれ、多くの党派が誕生しました。老舗の党派が良いとばかり申しませんが、新しく生まれた党とそこに結集した政治家は近い将来、政策課題によって次々と離合集散を繰り返すのでしようか。

政治家の資質はその国の有権者の政治的成熟度の反映だといわれているので、わが身のこととして考えていかなければならないでしょう。

さて、今年産のとりわけ「新潟産コシヒカリ」の品質低下を受けて、各機関や団体による反省検討会がおこなわれています。品質低下の主要な原因は、登熟期の高温障害による基部未熟や乳心白粒の発生とフェーン現象による割れ粒の発生、そして上越地域を中心に発生したカブラリア菌による着色粒の混入によるものでした。特にカブラリア菌による着色粒の発生は規格外相当のものが大量発生したということであり、色彩選別機を2回通してようやく3等に格付けされる程ひどかったようです。過去にもカブラリア菌による着色粒の被害はありましたが、事前に発生を予測することはむずかしく厄介な代物です。しかし、大量発生は単年度限りで翌年まで被害の発生を持ち越すことは従来にはなかったようです。

一方、登熟期の異常高温やフェーン現象のような気象条件は、現在のような温暖化、異常気象下では毎年繰り返される危険性があります。一番確実なのは高温障害に強く、食味の新品種を作り出すことです。他県では次々に新たな品種が作出されて、価格の問題もあるでしょう。知名度を上げ、売り上げを伸ばしているようです。そうした中でトップ銘柄の「新潟産コシヒカリ」に残念ながら陰りがでてくるのを目をそらすことはできません。

栽培技術面では様々な検討が行われ、指針が出されています。様々な技術対応が提起されていますが、要は稲の茎と根、とりわけ根をいかに健康な状態に保つかということに尽きるところだと思います。そのための深耕であり、後期の栄養の確保であり、水管理の徹底ではないのでしょうか。当たり前のことかも知れませんが、人間の都合ではなく、稲の側に立って考えることが求められています。来年は物言わぬ稲の気持ちを少しでも理解できるように、稲に寄り添った米づくりを目指したいものです。

《内山常蔵記》